

「下北沢の街づくりに重大な関心を寄せる専門家の集い」の緊急アピール

私たち専門家の集いは、住民の意向を反映し、下北沢在住の専門家が中心となって作成した「代替案」について、下北沢の特性を活かし、現代都市計画の考え方に沿ったものであるものと評価するため、支持いたします。

私たちは2005年7月4日「下北沢周辺地区 地区計画素案の取り扱いについての要望書」を提出し、本素案の計画の見直しを求めました。

専門的な知見による現代都市計画の考え方から見て、下北沢という全国でも稀な、優れた街にとって、この地区計画の素案は適切ではないこと、この素案作成の手續きに疑義があることなどの理由で、現素案の再検討を求めたものです。

その後、世田谷区は、区の都市計画審議会に事前の報告を行い、既定の路線で進むことを明らかにしました。さらに、参考資料に掲げたような様々な市民的な動きがあり、地元専門家による支援活動が続けられ、海外を含む多くの専門家の提案がなされ、それらの活動の報告が行政に対してなされているにもかかわらず、区の姿勢は変わらず、補助54号線の道路事業認可の提出を急いでいるという話が伝わってきています。

他方、地元の商店主、住民との密接な接触を通じて得た多数の地元意見を背景として、下北沢在住の専門家が中心となって代替案が作成され、本日発表されました。

この案は、下記の諸点において、現代都市計画の考え方に沿ったものと考えます。

1. 安心して歩き、楽しみ、憩う道を大事にするために、車による交通より人の歩行を優先していること。
2. 小田急線地表部分の避難路としての活用、きめ細かなコミュニティー防災の考え方は、現在の防災の考え方に適合していること。
3. 大規模な再開発ではなく、小規模連鎖型で街を再生していく考え方は、現在既にユニークな地位を占めている下北沢の魅力の増進に寄与すること。
4. 一部の大規模地権者や開発事業者などの力と大規模公共事業によって街の形を変えていくという考え方をとらず、効率的な公共投資を背景に、多数の小規模な事業者の協働と努力に期待すること。

よって、この専門家の集いは、この代替案を支持します。

東京都および世田谷区は、私たち専門家の意見を真摯に受け止め、地区計画の素案および関連する道路計画の再検討を進めるよう強くお願いします。

下北沢の街づくりに重大な関心を寄せる専門家の集い

代表署名人 蓑原 敬（都市プランナー）

青木 仁（東京電力技術開発研究所）

石川幹子（慶応義塾大学教授）

稲垣道子（都市計画コンサルタント）

大方潤一郎（東京大学教授）

大熊喜昌（NPO 日本都市計画家協会理事）

加藤 源（都市プランナー）

加藤仁美（東海大学教授）

北沢 猛（東京大学教授）

木下 勇（千葉大学教授）

倉田直道（工学院大学教授）

国広ジョージ（国土館大学教授）

小浪博英（都市計画家協会理事）

小林正美（明治大学教授）

小林博人（慶応義塾大学助教授）

佐藤 滋（早稲田大学教授）

司波 寛（都市計画コンサルタント）

陣内秀信（法政大学教授）

高見沢邦郎（前首都大学東京教授）

中井検裕（東京工業大学教授）

西田 穰（都市計画コンサルタント）

西村幸夫（東京大学教授）

二瓶正史（建築家・法政大学講師）

福川裕一（千葉大学教授）

松延洋平（Georgetown 大学客員教授）

森反章夫（東京経済大学助教授）

八木健一（ランドスケープアーキテクト）

山本俊哉（明治大学助教授）

吉川富夫（広島県立大学教授）